

難聴乳幼児 早期発見のために



日常生活の中で
お子さんが

0歳

生後すぐ～3か月頃

- 大きな音がしてもびっくりしない

1か月～

- 音の出るおもちゃに関心を示さない

6～8か月ごろ

- きげんのいい時でも“マンマン”とか
“ババババ”などの声を出さない

6か月～1歳頃

- うしろからささやき声で呼ぶと振り向かない
- 「パパは?」「ママは?」と問いかけても
そちらのほうを見ない

1歳

1歳半頃

- 「マンマ」などのはじめてのことばが出てこない

2歳

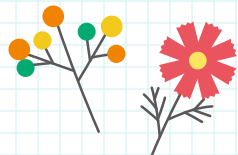
2歳頃～

- 聞き間違いや聞きかえしが多い

3歳

3歳頃～

- ことばがはっきりしない
- ことばの数が少ない



1つでもあてはまることがあれば、
聴力検査を受けましょう

生後すぐから検査ができます

電話・メールで予約をしてください

岡山県聴覚障害児支援 中核機能強化事業

岡山かなりや学園は、
岡山県より委託を受け、各関係機関と連携して、
県内の聴覚障害児とその保護者に
切れ目のない支援を行っています。

「どうすればいいのかわからない」
「どこに相談すればいいのかわからない」
どのようなことでも、ご相談ください。



岡山県聴覚障害児支援センター 岡山かなりや学園

〒700-0927 岡山市北区西古松321番地102
tel:086-241-1415 fax:086-241-3017
mail:kanariya@po.harenet.ne.jp



kanariya1975.com

きこえと ことばの ご相談

学園のごあんない



児童発達支援センター

岡山かなりや学園

学園の歩み

昭和44年

元ろうあ児施設大元寮(昭和59年閉寮)に併設される形で、難聴幼児専門の通園訓練機関のモデルケースとして「難聴幼児母子訓練部門」がスタートしました。

その後、岡山大学医学部耳鼻咽喉科学教室の協力を得ながら、施設を拡充しつつ、難聴幼児施設の制度化を訴え続けてきました。

昭和50年
4月

全国に先駆け、難聴幼児通園施設第一号として厚生省の認可を受け、早期発見・早期教育に努めてきました。

平成24年
4月

主に難聴児が通う「福祉型児童発達支援センター岡山かなりや学園」に名称が変わりました。

現在

学園では児童発達支援事業と保育所等訪問支援事業を行っています。

新生児聴覚スクリーニングや人工内耳術後のフォローアップ、補聴機器の調整など、様々なケースに対応しています。

学園の目標

聴覚障がい乳幼児を
早期に発見する

聴覚を最大限に活用し、
ことばを育てる

家族と協力して
療育を行う

社会性を育てる

保護者への
支援を行う



児童発達支援



療育

0歳から就学前までの聴覚障がい乳幼児が、聴覚を活用できるように補聴して、ことばの発達を促していきます。

形態としては、グループ療育と個別療育を行っています。

子どもだけではなく保護者も直接・間接的に参加し、接し方やことばのかけ方を学んでいきます。

定期的に聴力検査や補聴機器の調整も行います。

家族支援

子どもの成長には、家族との関わりがとても大切です。

保護者が聴覚障がいについて正しく理解し、家庭でお子さんに合わせて関わるができるように、担当との話し合いの他に、講師を招いての保護者研修会なども行っています。

学園行事

楽しい経験を通してことばを獲得するため、家族で参加できる園行事を行っています。その他、各年齢でお誕生会や、七夕・節分などの季節の行事も行っています。

- ◆ 開始式
- ◆ おまつり
- ◆ クリスマス会
- ◆ 修了式 など



関係機関との連携

聴覚障がい児が通う、幼稚園・保育園・こども園・他事業所に訪問し、聞こえ方や補聴機器の取り扱いについて説明し、聴覚障がいへの配慮について話し合います。

小学校や中学・高校なども、必要に応じて訪問します。

また、研究協議会や巡回相談を通し、各地区の保健師や相談支援専門員とも連携しています。

大元寮診療所

きこえやことばの発達が気になる乳幼児を対象に、聴力検査やことばの検査を行います。

聴覚障がいと診断された場合、保護者と相談の上、早期に補聴して療育を開始するための手続きを進めていきます。

耳鼻科医の診察や聴力検査は、年齢に関係なくどなたでも受けられます。

補聴機器の調整なども行っています。

